

「福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ」

福島ドイツ高校生交流プロジェクトの活動報告会を

岐阜で開催します。



福島の高校生が語る。



東日本大震災とドイツで学んだ、

「再生可能エネルギー」。



〈チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業〉

2019.12.8 日

9:30-11:30 9:00開場

場所 ▶ じゅうろくプラザ4F (JR岐阜駅隣接 徒歩約2分)

大学生以下

参加無料

一般 500円 (資料代)

詳細: 連絡先090-8301-1123 (小玉)

主催: NPO 法人アースウォーカーズ
協力: 命とくらしを考える会 ぎふ

2019.12.8 日

9:30-11:30 9:00開場

大学生以下

参加無料

一般 500円 (資料代)

場所 ▶ じゅうろくプラザ4F (JR岐阜駅隣接徒歩約2分)

9:30

福島の高校生による報告会

訪独した高校生たちと、NPO法人アースウォーカーズ代表の小玉直也さんらによる活動報告プレゼンテーション。福島の実情や、現地で学んできたドイツの再生可能エネルギーについて話します。

質疑応答

参加者のみなさんからの質問や感想を出してもらい、それに応えながら再生可能エネルギーやドイツの教育、社会について深めていく。また、自分に来る可能性などを語り合う。



福島の実情とドイツで学んだ、彼らの生の声を、ぜひお聞きください。

『前の自分だったら自分から手を挙げて話すなんて絶対しなかったのに、それができたので自分でも驚きました。たくさんの方に支えられていると改めて思ったので残り少なくなってきたドイツでの生活をさらに大事にして有意義な時間を過ごせるように頑張りたいです。』

『市役所ではスピーチをした。私は日本語でスピーチをしたが泣かないように頑張った。いつもは、日本語でも英語どちらでも、「ぐっ」となにかが込み上げてきて泣いて辛くなるが、少しずつスピーチするのが楽になってきた。菜穂子さんのお話にもあった「ブレイクスルー」を自分でも少しずつ感じはじめた。少しずつ震災の体験が自分の中で「過去」になりはじめていた瞬間だった。』

『ソーラーパネルは建物の壁や屋根、カーポートなど、ありとあらゆる所についていたし、とても大きな風車がたっくさん並んでいたり、日本ではなかなか見れないものを見せてもらいました。実際に目で見て体感することの大事さを実感しました。』

プロジェクト参加高校生たちの実際の声。
(アースウォーカーズHP ブログより抜粋)

『いろんな辛かったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、全部、全部最初からのことを思い出した。時間が止まれば良いのにと、とても思った。』

アンドレアス、いつえさん、デニツの3人との別れはとても辛かった。たくさん泣いたが、たくさん笑えました。

明日のフライトのために早めに寝なければならないが、なぜか余韻が残ってしまって寝ることができない。本当にたくさんの人と出会って、関わることができて良かった。It is special time.』

『放射線のお話を聞いて、自分の意見を言えること、こんなにも清々しいものかと分かった。』

『日本とドイツの環境・エネルギーに関する政策は真逆だ。原発事故が起きたら、本当に正しいのはどちらか、しっかり考えて欲しい。』

『午後はFriday's for futureのデモを見に行った。8才くらいのお小さな子供が交通省の近くで、自分らの将来のためCO2削減を、屋外ステージの上でマイクを持って、声をあげていたのだ。』

主催： NPO法人アースウォーカーズ

アースウォーカーズでは、福島の高校生をドイツに派遣する「福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ」福島ドイツ高校生交流プロジェクトを開催しています。アースウォーカーズの詳しい概要や活動内容についてはこちらをご覧ください。



協力：

命と暮らしを考える会 ぎふ

問い合わせ：

090-8301-1123 (小玉)